

県議会議員

あらい、絹世の「磯っ子」レポート

夢と希望のある神奈川を



<https://araikinuyo.jp/>

物価高騰、生活困窮者、コロナ感染症対策など 県の9月補正予算案2件(約410億円)一括可決

開会中の県議会第3回定例会に9月、県の黒岩祐治知事から2つの補正予算案が提案され、10月14日の本会議で2件とも原案通り可決されました。9月7日に提案された『その1』は物価高騰や生活困窮者対策が中心の一般会計と企業会計(水道施設の光熱費増への対応)の計73億9700万円、9月26日に提案された『その2』は一般会計336億6200万円(物価高騰等、コロナ対策)で、9月補正予算案は2件計約410億円です。いずれも国の施策に則ったもので、財源はほとんどが国からの交付金などによるものです。

『その1』では畜産農家等の飼料や光熱費等、一般公衆浴場の燃料費、自家消費型太陽光発電装置の導入に係る補助、生活困窮者が県社会福祉協議会からの生活福祉資金貸付事業を利用することに関し、貸付原資等の補助の追加支援を行うなどです。補正予算『その2』では医療機関等、福祉施設等(高齢者、障害福祉、児童養護、救護施設)、私立学校の各光熱費等の高騰への支援として行い、医療機関(約1万6000カ所の中で)に51億2361万円、福祉施設等(約2万カ所の中で)に77億8543万円、私立学校(学校175校、幼稚園=県の助成対象=301園、専修学校94校が対象)用に2億8434万円の予算を計上しています。補正予算案の中には新規事業(一部も含む)もいくつか含まれていますが、この中で着目したものを紹介します。

■生活に困窮する若者等への支援・500万円

昨年、横浜市内の企業が創立50周年を迎えたのを記念し、今春、県に500万円を寄付しました。県ではこれを元に進学・就職に困窮している生活保護世帯の若者を支援しているNPO法人に委託し、若者を支援する事業を今年度から新たに始めることにしました。県では来年度以降も、寄付金や税による事業を継続したい意向ということです。

■信用保証費補助・53億8367万円

物価高騰やコロナ感染症の影響を受けた県内の中小企業等への融資への信用保証料への補助率を拡充する。現行、信用保証料率ゼロになるよう補助している原油・原材料高騰等対策特別融資以外のコロナ新規事業展開対策融資や伴走支援型(コロナの影響を受けた事業者の経営改善を金融機関が伴走支援する)特別融資にも適用、信用保証率がゼロになるようにする。



コレが言いたい!

今回の補正予算2では、医療機関や福祉施設の光熱費等の高騰に対する支援を行っていますが、今後も光熱費や患者入院食の食料費の値上げが続く事が予想されます。今回の補正予算の様な緊急的な支援だけではなく、診療報酬など公定価格の改定などを行い長期的な支援を行っていく様国に要望しています。

臨時交付金については、6月補正予算の残額や令和3年度からの繰越分などもあり、今回の補正予算での活用額を差し引くと、約40億円の残高があります。円安傾向やエネルギー価格の高止まりは今後も続く可能性があるため、引き続き支援策を講じていく必要があります。

今月のひと言

11月12日(土)から15日(火)「ねんりんピックかながわ2022」が開催されます。横浜市では、テニス(13、14日・三ツ沢公園)とサッカー(13、14日・保土ヶ谷公園他6か所)の2種目が行われます。

磯子あれ? これ?

峰白山神社 (磯子区峰町)

白山神社の創建時期は明確には分かりませんが、天保15(1844)年の社殿鎮座の棟札によると、鎌倉時代より当地に鎮座して現在まで約700余年の歴史ある古社であることは確かです。

明治以前の神仏習合の時代には「白山権現社」と呼ばれ阿弥陀寺の寺持ちとして祀られていました。

明治初期の神仏分離によって、阿弥陀寺の管理から離れて峰町の鎮守となりました。明治45(大正元)年の神社合併により栗木の日枝神社に合祀され、社殿も移されました。

昭和の終戦後、宗教法人法が改正され元の場所に戻り、昭和22年に仮社殿を建て還御祭を奉仕して、名前を「峰白山神社」としました。

昭和41(1966)年から始まった洋光台団地造成のため、小名権現の旧社地が売却され、それを基金にして氏子からの寄付を合わせて現在の社殿を奉建し、昭和48年に岡村天満宮の杉原敏之宮司によって還宮奉祝祭がおこなわれました。

令和元年の台風により本殿の屋根が吹き飛ばされましたが、氏子の人達による寄付等で約3年後に修復が終わり、今年の例大祭を迎えることが出来ました。

参考:磯子の史話・白山神社を巡って

活動報告



10月6日(木) 予算委員会で質問を行いました。

質問内容は「ヤングケアラー支援」についてです。9月の補正予算では、ケアリーバー(児童養護施設や里親などの社会的養護のケアから離れた子どもや若者)、被虐待経験者など生まれ育った環境によって進学や就労に困難を抱える若者たちを支援するNPOに対して企業からの寄付を活用し支援していますが、ヤングケアラー支援の今後の推進に向けてどのように進めていくのか、知事の決意を伺いました。

あらい絹世 プロフィール

- 昭和43年3月8日 横浜市磯子区生まれ
- 横浜雙葉小・中・高等学校卒業
- 明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業
- 日商岩井(株)/ (株)メタルワン
- 平成31年4月 県議会議員3期目当選
- 総務政策常任委員会委員
- 共生社会推進特別委員会委員
- 予算委員会委員
- 自民党県議団政務調査会会長
- かながわ自民党女性議員局長

